

平成23年度上半期における医療事故等について

医療の透明性と県民の医療に対する信頼の一層の向上を目指し、医療現場における安全確保に資するため、平成23年度（上半期）に発生した栃木県立病院における医療事故等について、公表いたします。

1 レベル別件数

レベル	内 容	件 数		
		岡本台病院	がんセンター	とちぎリハビリテーションセンター
0	エラー(※1)や医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった。	0	76	21
1	患者への実害はなかった（何らかの影響を与えた可能性は否定できない。）。	101	214	135
2	処置や治療は行わなかった（患者観察の強化、バイタルサイン(※2)の軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた。）。	57	262	20
3 a	簡単な処置や治療を要した（消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など）。	12	64	16
3 b	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など）。	1	8	1
4 a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。	0	0	0
4 b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う。	0	1	0
5	死亡（原疾患の自然経過によるものを除く。）	0	0	0
計		171	625	193

※1 ある行為が、①行為者自身が意図したものでない場合、②規則に照らして望ましくない場合、③第三者からみて望ましくない場合、④客観的期待水準を満足しない場合などに、その行為を「エラー」という。

※2 血圧、脈拍、呼吸など

2 事象別件数

事 象	内 容	件 数		
		岡本台病院	がんセンター	とちぎリハビリテーションセンター
薬 剤	注射、点滴、内服薬など	27	192	59
輸 血	血液検査、輸血など	0	7	0
治療処置	手術、麻酔、処置など	3	45	5
医療用具	医療用具、医療機器など	0	8	14
ドレーン、チューブ類	チューブ、カテーテルなど	1	89	0
検 査	採血、撮影など	1	54	6
療養上の場面	転倒、転落、給食、栄養など	114	156	90
そ の 他		25	74	19
計		171	625	193

((財)日本医療機能評価機構による分類)

### 3 代表的事例及び対応策

事象	代表的事例	対応策
薬剤 (調剤、 与薬)	【レベル0～2】 名称が似ている別の薬剤、あるいは、用量を誤って調剤した。同姓の別の患者の薬を誤って服用させた。	薬品棚の配置や表示の工夫により取り違い防止を図るとともに、調剤時の薬品名、規格の確認を徹底し、発生防止に努めた。 処方薬の確認は複数の看護職員で行い、服用時には患者のフルネームを呼称して手渡すことで発生防止に努めた。
薬剤 (与薬)	【レベル1】 内服用を自己管理している患者について、服薬時間後、与薬用トレイ上の薬袋が空になっていることを確認したが、下膳の際、床に落ちている薬を発見し服用漏れが判明した。	自己管理の薬についても、看護師が見守りによる患者の確実な服用を確認することとした。
検査	【レベル2】 大腸内視鏡の検査に来院した患者の抗凝固剤休薬期間が短く、ポリープ切除術を実施することができなかった。【出血を伴う処置を行う場合、14日前から休薬する必要がある薬を5日前からしか休薬していなかった。正しく休薬できていれば、この時に必要な検査を実施することができた。】	検査をオーダーする時点で患者が服用している薬の確認を徹底し、患者が服用している薬剤に合わせた休薬を正しく指導するよう医師へ周知した。 検査予定者については、外来受診時点で患者の常用薬を確認する仕組みを試行中。 類似事例を含めて院内に公表し、再発防止に努めた。
療養上の場面 (転倒)	【レベル1～2】 トイレに行こうとするなど急に立ち上がろうとしてふらついて、病室、廊下、食堂、浴室等でつまずいて、あるいは、滑って転倒した。	転倒が予測される患者に対しては、介助、見守り、床の水ふきの徹底など確実に行い、発生防止に努めた。
療養上の場面 (転倒)	【レベル3b】 徘徊マットのコールが鳴り訪室すると、患者がベッド脇に立っており、ベッドに座らせると、右肩甲骨下部に痛みを訴えた。 CT撮影の結果、右肋骨骨折、胸水及び軽度肺炎を認めた。	認知症患者、特に歩行可能な患者に対しては、徘徊マットの設置に加えベッド柵にタッチコールを設置し、さらに看護師が患者の行動に注意を向け、見守り強化を図ることとした。
療養上の場面 (食事)	【レベル1】 特別食の誤配膳、あるいは、禁止食材を提供してしまった。【看護職員が食前に気付くなどして実害なし】	ミーティング時、配膳時の食事変更や禁止食材の確認を徹底し、発生防止に努めた。
その他	【レベル3a】 手術後、麻酔から覚醒しせん妄状態の患者が、留置されていた点滴のライン、ドレーン・チューブをはさみで切断した。	入院時には、案内パンフレットの周知によるだけでなく、はさみ等の持ち込み確認を徹底した。 処置用のはさみなどを、患者の病室に常備しないことを徹底した。 患者・家族への協力依頼と対応について、全病棟の対応を統一することとした。

今後とも、安全な医療を提供するため積極的に事故防止対策に取り組み、県民の皆様信頼される県立病院を目指して努力してまいります。